

かわらばん

第49号 2023年4月10日



【特集 大軍拡に抗う2】

岸田政治を阻止しよう……鈴木忠夫／“死んだる暇はない”のよ……吉岡数子／
「剣をとる者はみな、剣で滅びる」(マタイ26章52節)……渡辺真知子／むのたけじと澤地久枝……林 克行
／南西諸島ですすむ大軍拡、このままでいいの？……丹羽雅代／いつか見た風景……道草よりこ
メールで読書会5 齋藤正彦著『アルツハイマー病になった母が見た世界』
……角田由紀子／T. I /三井富美代
CINEMA 『日の丸』寺山修司40年目の挑発 HINOMARU」を観た……丹羽雅代
寄稿 エリザベスさんに在留特別許可を！……柳沢由実子
短信：一票で変える女たちの会FBから

*記事中のURL、一部の写真は、出典サイトとリンクされています。クリックするとリンク先が開きます。

投稿特集

大軍拡に抗う2

岸田政治を阻止しよう

鈴木忠夫

安倍・菅と続いたおぞましい政権が倒れ、その後岸田が首相となった。私たち多くの国民はもう少しましな政治をしてくれるのではと岸田政権に期待を寄せたが、とんでもない政権であることの正体を現しました。ウクライナ戦争にかこつけて、中国と台湾の問題をことさらに不安に陥れるよう煽りたて、日本の防衛のために軍事予算を倍増、その為の増税、国債の発行、そしてアメリカからミサイルを買うと言っています。ミサイルで国を守るのでしょうか？
軍備増強の前にやるべきことがあります。それは外交努力を重ね不安な状況を取り除く、これがまず第一でしょう。

岸田の口から外交の「ガ」の字も出てきません。軍事予算どころか原発も稼働期間の延長、そして新増設もすると言っています。選挙もなくこのまま三年岸田政治が続いたら、日本はどうなってしまうでしょう。軍靴が響く戦前の政治に逆戻り、恐ろしいことです。今こそ私たちは「岸田政権はいらない」と大きな声を挙げなければと思います。

(二月一六日)

“死んだる暇はない”のよ

吉岡数子

えっ!! 「くにたちの空を、欠陥機で悪名高い米国製V22オスプレイが飛ぶ！」だって!!
今年正月六日、私は自宅ポストに入っていたチラシをみて驚きま

した。それによると「昨年一月初め、防衛省北関東防衛局が、立川基地周辺八市（立川・国立・日野・昭島・国分寺・小平・東大和・武蔵村山）へ、二〇二三年一月から木更津基地の陸上自衛隊のオスプレイを立川基地へ訓練飛行させる」と通告。「八市連絡協議会は、わずか数日間の検討で、簡単な要請を出しただけで、オスプレイの飛来を認めてしまっていた」のです。

そこで十数人かの国立市民がいち早く一月二二日、三六七筆の署名とともに「自衛隊オスプレイの立川基地への飛来と訓練に関して十分な説明を求める」陳情書を国立市議会に提出し、一二月三日の建設環境委員会で採択（賛成

五、反対一）され、続いて一二月二日の本会議でも可決（賛成一二、反対八）され（署名九三一筆）、「自衛隊オスプレイの立川基地への飛来と訓練に関して、市民の懸念が払拭されることのないまま行わないよう十分な説明を求める意見書」を、国立市長名で内閣総理大臣、防衛大臣、北関東防衛局長へ提出していたのです。

ヤツタゼくにたち!!（後に全戸配布の『くにたち市議会だよりNo.264』で、賛否の議員名も判り、今後の一票とつながるか？）

さらに私が受け取ったチラシは、この一連の市民活動の中で生まれた「オスプレイ飛来に反対するくにたち市民の会」が、一月一五日に市内の集会所で「陳情報告集会」を開くというものだったので、私も駆けつけました。定員八〇名をゆうに超えて、はみ出さんばかりの盛況ぶりでした。

が、ガガガガガ……その一〇日後の一月二五日、北関東防衛局からの一方的な告知です。

「日時・二三年二月一日（予備日）二月二日・三日）／一〇時から一五時の間（昼の一二時〜一三時除く）／機数・V22（オスプレイ）一機／訓練内容・航法訓練・離着陸訓練」

くにたち市民、さらに立川基地周辺住民のこの一週間の不安と怒り！「市民の会」を中心に、再度の各戸ビラ配布、駅前マイクアップ、ピール、ビラ手渡しに終始。私も二日間参加、寒かったけれど心は

燃えていた……。

大根一本が二五九円に値上がりかため息をつく私の生活に、オスプレイ一七機購入〓三、六〇〇億円十二〇年分維持管理費三、二二九億〓六、七三九億円を国の予算に計上し、今後は国民の税負担と言いつつ政府!!! バカコケ!!!

戦後生まれの私たちでも、七八歳の老女になったって、大先輩増永スミコさんのいうように、まだまだ「死んだらヒマはない」のよ！一票をしつかり握つとるのよ！非戦!!!

（三月一七日）

「剣をとる者はみな、剣で滅びる」（マタイ26章52節）

渡辺真知子

二〇二二年一二月、岸田政権は国会閉会中に、安保関連三文書（国家安全保障戦略、国家防衛戦略、防衛力整備計画）を閣議決定した。安保三文書には、「平和国家として、専守防衛、非核三原則の堅持等の基本方針は不変」との文言はあるものの、「反撃能力を保有する必要がある」、「軍事費を五年間で計四三兆円にまで増額する」と明記されている。戦後一貫して他国を攻撃できる兵器の保有は「憲法の趣旨とするところではない」としてきた政府見解は、見事に覆されてしまった。

この重大な政策決定が、国会での議論や承認も経ないままに行われたことを、私は決して忘れない。二〇一五年安倍内閣が安全保障関連法案（戦争法）を強行成立させ、集団的自衛権行使が可能になった日本は、ここに至って「先制攻撃ができる国」、「自ら戦争をする国」



へと変貌した。

二〇二三年一月、岸田首相は通常国会召集に先立って訪米し、バイデン大統領と会談して日米共同で敵基地攻撃能力の協力強化を進めることで合意した。防衛費増額について、国会論戦を通して広く国民に伝える前に、米国に報告したことは、国民主権ならぬ米国主権であろうか。(涙)

軍事費を増額すれば、国民の生活の質の低下は必至で(財布は一つしかない)、軍事的緊張は高まり、不測の事態が起こる可能性は増え、平和は遠ざかるばかりである。

岸田政権は原発回帰の姿勢を鮮明にしているが、山口原子力防災相は「ミサイルを防げる原発は世界に一基もない」と明言し、原子力規制委員会委員長も「原発が武力攻撃を受けた場合、著しい炉心損傷を伴う事故に至る可能性は当然ある」と述べている。原発が攻撃されれば、核攻撃を受けるに等しい甚大な被害が想定される。

また食料自給率二八%の日本は、有事で物流が停滞・途絶すれば、食料供給に多大な影響が及ぶ

ことだろう。

一九二八年生まれの母は、「戦争だけはどんな理由があっても絶対ダメ」と言い続けた。軍備をいくら増やしても、一旦戦争が起れば命と平和な暮らしを守ることができない。

武力によらない外交の力で、戦争を回避することこそが唯一無二の安全保障である。

(三月二〇日)



むのたけじと澤地久枝

林 克行

前に放映された「NHK百年インタビュー」の「むのたけじ」(放映二〇一一年)と「澤地久枝」(同二〇一五年)を観る機会がありました。二人は世代も一周りほど、またジャーナリストと作家と活動も異なりますが、とても胸に迫る共通点がありました(ちなみに、

NHKもこの頃までは良い番組を作っていたのですね)。

むのは、一流新聞社の記者として従軍し、戦争の真実を報道できなかったことを強く反省し、またGHQに追従する記事を書くことを潔しとせず、退職します。そして、一人で新聞『たいまつ』を発行し、反戦はじめ世に警鐘を鳴らし続けます。澤地は、軍国少女になりきっていた自分を許せないと、無知を強く恥じます。ドキュメンタリー作家となり、戦争がいかに普通の人々を悲惨な目に遭わせるかを世に問い続けます。

二人の共通点の第一は、あの戦争を「総ざんげ」で済ませず、自分が関わったことに向き合っただけに反省し、戦争を二度としてはならないと訴え続けていることです。

二番目は、むのは、「国内植民地」と蔑まれてきた東北の農民に依拠しながら真のジャーナリズムを体現し、澤地は祖母や母のようなごく普通の必死に生き抜いてきた人々の心を引き継いで書いていることです。戦争をするのは偉い

さんで、暮らしを生きるごく普通の人は本来、戦争なんて望まないと確信しているのです。

最後に、二人の共通点で最も感銘を受けたのは、むのは「希望は絶望の中にある」と言い切り、澤地は、「人間を信じる、希望を捨てない。普通の人が考えるようになる」ならば、戦争はできない国になると、決して悲観していないことです。

どんな厳しい時代でも、我々が戦争を風化させず地道に努力すれば、すぐには無理でも明るい未来は必ず来るという確信です。

戦争をする国に向かっていく今の日本、あきらめて流されそうになりますが、二人から大変大きな元気をもらいました。

希望をもって投票しましょう。

(三月三一日)



南西諸島ですすむ大軍拡、 このままでいいの？

丹羽雅代

そもそものスタートは二〇一〇年の防衛大綱で、大筋が出された時からだ。そのあたりから「台湾有事」が言われるようになり、日本

の防衛力強化が必要という議論がどんどん出るようになってきた。「仮想敵」は中国?? ということは中国とアメリカが戦争するということ? それは第三次世界大戦?

「台湾有事」という想定自体が仮想もいいところ、日本はずっと台湾は中国の一部であると認識し、公言している。そして台湾自体も、中国からの独立を要求しようとしてはいない。しかし、もしも「台湾有事」が起きたとき、米軍が軍事介入をするだろう、その時の拠点が沖縄にある米軍基地というifの世界。

この机上演習は何度も行われているし、時がたつにつれその規模は大きくなっていつている。今で

は在沖米軍基地使用は当然とみなされているといつてよい。しかもこの二〇一〇年防衛大綱で自衛隊の「南西諸島へのシフト」政策が明確になり、防衛省は奄美・沖縄への部隊編成・移住を急速に進めている。

与那国、宮古、そして石垣に駐屯地が開設された。当然ながら自衛隊員の住居も整備され、家族も移住する。それぞれの自治体は大きな影響を受けている。

二〇一三年度には、沖縄の民間港湾施設でどこなら米軍が使用可能かなども調査されている。そこで上がっているのが、宮古島市の平良港、石垣市の石垣港、与那国の祖納港。しかし、日本の法律では、管理者の判断が決定権を持つとなつてはいるはずだ。

また、鹿児島県の馬毛島には、合同司令部がおかれるという。昨年には安保三文書が国会での議論もないうままに閣議決定のみで作られている。しっかりと読むにも、本当にひどい文章だ。

先の号に宮古の実情を中心に

書いてくださった清水早子さんは、毎週二回、少なくとも六人で自衛隊基地の前で反対の声をあげている。清水さんは「自由自在空間 久松館」(HP URLは <https://www2.miyako-ma.jp/hisanatu/>) という場を開いている。多くの人が実際の状況に会いに行つてくださることが何よりだと思う。

知らないでいるということはとても大きな罪ではないか。

カンパ送り先…ゆうちょ銀行
記号 0171015
番号 147047
口座名 ミサイル基地いらない宮古島住民連絡会

いつか見た風景

道草よりこ

夜の歌舞伎町で若年女性支援活動をしているNPOコラボ(Colabo)への陰湿で執拗な攻撃。

警察は被害側を守るところか無視し、一部事業委託していた東京都



は活動の休止を求めたという。それでは加害側に加担するようなの、行政のやることではないと怒っていたら、今年度から事業委託を打ち切った。さまざまに困窮する女性たちは、避難所を失い、性暴力と性搾取の待ちかまえる夜の街にさまようことになる。

本来行政のやるべきことを担い、努力を積み重ねてつくり上げたバスカフェというやさしい居場所。その活動に乗っかり「女性支援」をやっていた都は、住民監査請求で震え上がり、あっさり放り出したようだ。ジャーナリズムは始め、監査で指摘されたわずかな瑕疵を取り上げ、あたかも不正があつたかのような印象を与える記事しか出さなかつた。より罪深い。おりしも新年度予算が可決された。防衛費は七兆円近い。減額された福祉予算と増税のかたちで、

いずれ私たちの背にのしかかってくるこの金額は、軍隊という巨大な暴力装置の費用。人々が過去を忘れて「国を守る」という謳い文句にまどわされているうちにこの装置が動き出し、暴力を容認する空気を醸成しているのではないか。

コラボを攻撃する側は、彼女たちが都の支援金から不当な利益を得ていると、あざとく汚い言葉で言いつのり、得意げにまとわりついて活動を妨害する。彼らの本当の目的は、自分たちの「女を性的に支配する権利」を邪魔立てする「生意気な女たち」を排除することにあるのだろう。無名無力の庶民があるとき、公益という「正義」をふりかざすことで権力の側に立つたつもりとなり、ボランティア憲兵として暴力装置に組み込まれる。その中で日頃の鬱憤をはらすという、いつか見た風景が蘇っている。こんなふうに戦争の時代は始まるのかもしれない。

コラボ支援の情報はこちら
<https://colabo-official.net/>

メールで読書会

5

齋藤正彦 著

『アルツハイマー病になった母の見た世界』

ことすべて叶うこととは思わねど』



book club by email 5

似たような体験をするかもしれないとしみじみ思う

角田由紀子



つぎの読書会には昨日読了した『アルツハイマー病になった母が見た世界』が良いかと思えました。著者、齋藤正彦さんは松沢病院長（現在は名誉院長）などを歴任した精神科医で、専門は老年期認知症の医療・介護、高齢者の意思能力、行為能力に関する司法判断です。「母」とは齋藤玲子さんで正彦さんの実母。

「あとがき」によれば執筆の目的は二つです。一つは、認知症患者は物忘れなどの認知機能の低下

を（自分で）理解できないという精神医学の迷信をやぶること、もう一つは、遠くなりつつある昭和を家族と共に生き、未亡人として平成の時代を生き抜いた一人の女性の言葉を通じて同時代を編み出したということ。

玲子さんは若い時から日記を書かれており、認知症に罹患しながらも死の直前のメモを含めて、本書では六七歳から亡くなった八七歳までの二〇年間の日記が分析されています。亡くなる四年前にアルツハイマー病と診断されています。

六七歳からの日記が分析対象ですが、この時初めて自分の物忘れに対する記述が日記に現れます。以後は、自覚と共に自信を失って行く過程が記録されています。そ

れとともに三人の子どもの間のメールのやりとりも収録されています。

一番頼りにされていた専門家である著者は、認知症である事実と直面することへの恐れから、お母さんの自信のなさとそれからくる不安や苦しみに向き合わなかったことへの後悔と自省の念を書いています。もちろん、第一人者としての医学的な解説も載っています。

本心に敬意を表するしかない立派な生き方をされた昭和の女性です。知的能力が高く、それゆえに自分の認知力低下を分かっってしまうことの辛さ。さらに社会のデジタル化が急激に進んだことでそれに追いつけないことで日常生活、社会生活の苦勞を押し付けられるという指摘にも実感を持つて頷きました。



『アルツハイマー病になった母が見た世界』齋藤正彦 著
岩波書店 2022年11月



読み終わって、自分も似たような体験をするかも知れないと少ししみじみ思いました。でも、どういふことになるかが分かったことは良かったです。とても衝撃的な内容であったからでしょうか、昨夜はいろいろ記憶があいまいになって立ち往生している自分の夢（事件処理があいまいになったなど、一応それらしい内容です）を見ました。私はよくこういう夢の見方をするのです。

この本を読む人の様々な感想等をメールで送り合うのはいいかもと思いました。私がこの本を知ったのは、著者の、岩波の雑誌「図書」八八八号の巻頭エッセイ

を読んだことからです。すぐに読まねばと焦りました。心当たり山積でありましたからこわごわ読み進めました。ぜひ、ご一読を。

八〇代二年目、日記を再開しようと思う



T・I

精神科医の著者がこの本を書いた目的は、①認知症の人は物忘れなどの認知機能の低下を理解できないとみる精神医学の常識を覆すこと、②昭和・平成の時代を生き一人の女性の同時代史を見ることであるが、ここでは①について書く。

著者は母齋藤玲子さんが亡くなるまでの二〇年間の日記（それは他者に読まれることは前提とされていない。著者は母の了解を得てこれを譲り受けた）を長年かけて読んだ。玲子さんは青春時代をアジア太平洋戦争に翻弄され、敗戦後間もなく結婚、その後は夫、三人の子どもとの生活を大事にしてきたが、六四歳の時に夫を見送った後、若い頃できなかったことを取り戻すかのように、和歌の勉強会や同人誌創り、大学時代の友と

の読書会、留学生への日本語教育、ピアノを習う等で多忙な日を送った（それにカトリック信仰は生活の柱であった）。

しかし七〇歳前後から、身体の疲れなどもあつてか、小さな失敗があり、それを繰り返すのではないかと不安になったり、それを改善する努力をするということが見られるようになり、八〇歳近くにはそれが多くなり、活動を縮小するようになった。しかし同居する娘さん、近所に住む著者や弟の家族もいろんな形で玲子さんの気持ちを考え、サポート体制を作った。八四歳で老人ホームに入居したが、その後も家族をはじめ、高齢者の心理を学ぶ大学院生が定期的に玲子さんと会って話し、家族との連携もとつた。

そして玲子さんは八六歳の時に推敲を重ねた「ことすべて叶うこととは思わねど己が道をますぐにゆかむ」という短歌を残し、約半年後に永眠した。

この玲子さんの生活を見ると、病院で問診や検査などを通して診

断される、言わば外から見た患者像ではない。

だから私も玲子さんの日記の内容に感心したり、共感しながら七〇代をふり返り、八〇代二年目の日々を考えることができた。

私には信仰もなく（二〇代前半までキリスト教会に行き、宗教心のようなものはあるが）、七〇歳過ぎまで仕事中心の生活をし、子どもたちは社会人になって以来離れて暮らし、玲子さんのような心豊かな生活をしているとは言えない。日記は書いたことはあるが、二〇余年前の短歌風日記の、

幼児連れ単身赴任の娘
かつて私の通りし道なり

ひとつ事長き電話に解きほぐし
ハレルヤコーラスの練習に出る
を最後に途絶えている。

エンディングノートも十数年前に書いたが中途半端なままである。

今は、幸い友人に恵まれ、手紙、

メールの他、会って話す機会もある。家族ともコミュニケーションはとれるが、最晩年のこと、死後のことは話ができている。一度は話をせねばと思う。

その話の基礎となる生活や心情の記憶のためにも日記をつけることを再開しようと思う。

玲子さんの「ことすべて叶うこととは思わねど己が歩みをますぐにゆかむ」を、敬意と共感をもって復唱しながら……

(二〇二三年三月二七日)

この先の道は

三井富美代



母が娘としての私を忘れ、妹だと思いはじめたのは、高齢者施設に入った九三歳頃だったか。認知力の衰えはわかっていたが、その時不覚にも涙が滲み、自分で驚いた。それからしばらくは、「わたしはフミヨだよ」と訂正を試みてはい

た。あるとき、私の帰り際にホームの住民から「今のはだれ？」と問われ、きつぱり「いもうと」と答える声を聞いて、私は故人となっていた叔母の「ハルコ」であることを受け入れた。

母の記憶は高齢者施設に入居してから急速に失われていった。「なぜ自分はここにいるのか」「いつ家に帰るのか」という疑問を口にしなくなってから、娘と同居していた記憶は薄れていき、かつて四大家族であったことも忘れ、あつという間に娘時代に戻っていった。おそらくそれが、施設生活に適応する彼女の老人力だったのではないかと思う。

この本を読みながら、玲子さんの娘のみどりさんのことが気にかかった。プライバシーを尊重してのことだろうが、みどりさんについては詳しくは語られていない。玲子さんの晩年、みどりさんは四〇〜五〇代、心身ともに充実し仕事に邁進しながらも母の介護にもこころを砕いていたことだろう。介護保険の様ざまなサービス以外にも母を訪れケアしてくれる

人たちがいたとはいえ、働きながらの介護はそれなりに大変だったはず。認知症の進んだ玲子さんを一人にしておけなくなり、施設に送ったときはどんな気持ちだっただろうか。そのくだりを語るページを電車の中で読んで泣きそうになった。玲子さん親子と違い、わたしたちは折り合いの悪い母娘だったがそれにしても母は母なのだ。

母の老いをみながら、私もいづれ通る道と思っていたが、七〇代半ばのいま、いよいよ目前に迫ってきた。この本を読みながら、認知症の迷路にさまよい込んでいくような感覚に襲われたのは、自分も玲子さんが記すような経験を始めているからだ。この本はその意味ではこの先の道がどんなふうに見えるかを教えてくれた。

さて私は玲子さんのように抵抗し続ける（力がある）だろうか。それとも無力に人生からフェイドアウトしていくだろうか。果たしてそのどちらかを選べるものなのだろうか。

『一票で変える女たちの会』かわらばん
★印刷版をご希望の方は左記FAX、メール、ホームページの問合せ欄からご連絡ください。

★投稿大歓迎！

本や映画の紹介、地域での活動報告、選挙や地域の政治の動き、情報、ご意見なんでもお寄せください。「メールで読書会」にも、ぜひご参加を！（一本について四〇〇字〜一六〇〇字が目安）

宛先：1pyodekaeru@gmail.com
郵便：〒162-0823

東京都新宿区神楽河岸1の1

東京ボランティア・市民活動センター

メールボックスNo. 45

FAX：03-5684-1412

mail: 1pyodekaeru@gmail.com

HP: <https://1pyo-de-kaeru.com>

★カンパのお願い

私たちの活動に賛同する皆さん、ぜひカンパを！

郵便振替口座：

記号番号 00110-6-420003

口座名称 一票で変える女たちの会

イッピョウデカエルオンナたちノカイ

銀行等から振り込む場合：

店名(店番) 〇一九(ゼロイチキョウ)

店 (019)

預金種目 当座

口座番号 0420003



CINEMA

『日の丸』 寺山修司40年
目の挑発 HINOMARU
RU」を観た

丹羽雅代

たいそう挑発的なタイトルを目にして、久々に映画館に行った。元になる番組は、初めての建国記念の日の前々日（一九六七年二月九日）にテレビ放映されて、非難的となったドキュメンタリーだそうだけれどまったく記憶がない。すでに五六年も経つ。これは偏向番組とされ、放映中から非難の嵐で、閣議で問題になり、郵政省がTBSを調査するに至ったという。番組を構成したのは寺山修司、「演劇実験室◎天井桟敷」を立ち上げたその人で、詩人であり、劇作家、ジャンルを問わないクリエイター。

番組は、録音マイクを手にした若い女性が、通りがかりの人をとらえて次から次へと質問をし続ける展開。

日の丸といったら、あなたは必ず何を思い浮かべますか？

日の丸の赤は何を意味していると思いますか？

日の丸はどこに掲げたら美しいと思いますか？

あなたは国と家族、どちらが大切ですか？

あなたに外国人の友達はいませんか？

もし戦争になったら、その人と戦うことはできますか？ ……

じっくり考えさせて、相手の答えを引き出そう、議論をしようということでは全くない。かなりの早口で、これらの質問が間を置かずに繰り返される。感情的にならないでばたばたと問が続く。問われた人は目をぼちくりさせながら、でもそのスピードにのせられて次々答えていく。

途中で「これは何なんだ」と詰問する人も出てくるが、それには一切対応しないで、次の答え手に移っていく……実に不思議な内容だ。

その意図など語られることな

く、寺山修司はなくなって、四〇年がたった。

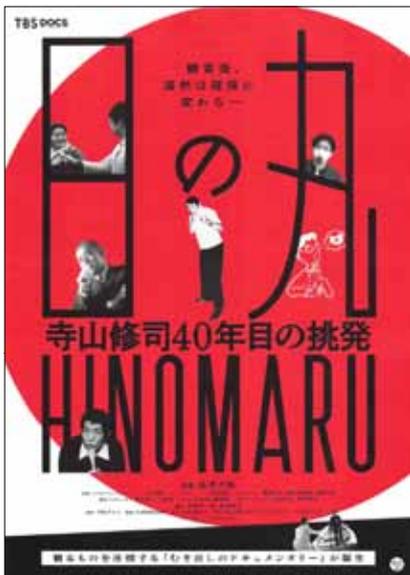
そのドキュメンタリーを、新人研修で見せられて、五年間温め続けた人が、この映画作品の監督。佐井大紀さんという。彼は寺山修司がやったことと全く同じことをやってみた。

雑踏のど真ん中で、友達と買い物中に、成人式へのみちすがら……いきなりマイクを突き付けられ、次から次へと、質問が飛んでくる。そんなことをいつも考えている人は多分あまりいないだろうから、どの人も戸惑う。でもその戸惑いには全くお構いなしに、質問だけが飛んでくる。古い映像で

は時々、待ってましたとばかりに持論を展開しようとする人がいたりするけれど、マイクはその人の意見を聞く耳などは全く持たない。

映画は五〇数年前の映像と、現在のものだが、交互に展開する。

映画をみて思ったこと。ほとんど語られる内容は変わっていない気がする。つまり、建国記念の日とやらは五〇数回も積み重ねられただけれど、その日の意味も、日の丸（国旗）も、国というものについても、支持不支持は問わず、心に刻み付けられ考えるような時間や場所はなかったということだと思う。内心はともかくとりあえず



寄稿

エリザベスさんに在留特別許可を！

柳沢由実子

自明のこととしてオリンピックでも学校関連の式典などでも、日の丸は目に入る。でも崇め奉る事が継承されるような機会はまずないし、行かない。むしろ式典などで頭を下げる大人がいると奇異な感じを持つ。職員会議の中ではともかく、先の問いに答えるような中身を深く考える機会などは多くの人々にはなかったということ。形だけあればそれでよいということか。

また答える様子は現代のほうが、そつなく、攻撃的な人はあらかじめスルーされたか、カットされたのかもしれないが見当たらず、もめる様子もなく、そのこと自体が、まるで空洞のような日の丸を示しているといえるのかもしれない。

入管法、難民の扱われ方、迫ってくる戦争の足音、南西諸島への自衛隊・ミサイル配備、朝鮮学校の教育無償化からの排除など、問題の深刻化はどんどん迫ってきているということと合わせてみていかなくては。

私たち with Elizabeth (エリザベスさんと共に) という市民グループは、仮放免の人々の窮状を訴え、入管や刑務所に収監されている外国籍の人々を励まし続けるエリザベスさんに、人道上の配慮からぜひ特別在留許可を！と Change.org で署名運動を始めました。

難民申請をしているナイジェリア人エリザベスさん (Obueza Elizabeth Aruorivo 五五歳) は、一九九一年に来日して以来三二年間日本に住んでいます。この間 FGM (女性性器切除) を理由に難民申請をしましたが認められず、現在二度目の難民申請中です。私は二〇二一年一月に『エリザベス、この世界に愛を』(NHK ETV 特集) を観て、エリザベスさんの

存在を知りました。エリザベスさんは来日して以来、数カ月間日本を離れたのを除いて、二〇二三年の三月現在まで、入管から仮に放免される「仮放免」という身分で、入管施設の外で暮らしています。

エリザベスさんはこの間二度入管施設に収容された経験があります。いつ出られるかわからない不安、閉じ込められ、心も体も弱ってしまうその経験から、エリザベスさんは全国の入管施設、拘留所、刑務所などに収監されている外国人たちに毎週面会に行き励まし、施設の外にいる家族(妻や夫が日本人の場合もある)を支援してきました。困窮と絶望状態にいる収容者たちや仮放免の人々に対するエリザベスさんの献身的な姿は私たちに、もつと寛容な日本社

会、世界の国々と人道的に繋がる社会へ、とうながしています。エリザベスさんの人道的な活動を認めて是非「在留特別許可」を与えてほしいというのが、今回私たちが Change.org という電子署名媒体で『エリザベスさんに在留特別許可を！』と法務大臣に求める理由です。

法務省の説明によれば「在留特別許可とは、日本から退去強制され出国することを前提とした手続きの一環で行われる特例的な措置のことです。言い換えれば、不法滞在やオーバーステータなどで退去強制事由に該当し、本来であれば日本から退去強制させなければならぬ人を、様々な事情を考慮して例外的に日本での在留を認めるのが在留特別許可」とのこと。

「仮放免」という言葉を知らない人は多いと思います。入管施設から仮に放免される人は、入管施設の外で暮らすことは許可されるものの、労働の禁止、健康保険や失業保険など公の保険に入れない



い、許可なしに県外に出ることができないなどの行動の制限があります。労働すること、収入を得ることを禁止されて仮放免された人はどうやって暮らしていけというのでしょうか。まさに難民締め出しの姿勢がはつきり現れている制度です。

何より、日本は難民をほとんど認めない国で、難民に関する限り、鎖国状態だと言っているほどです。そして今、法務省出入国在留管理庁（略称入管）は入国管理に関する法律をもっと厳しくしよう

としています。中でも問題なのは、現在難民申請は回数に制限がないのですが、改定案では難民申請に關し三回目からは「難民認定手続き中であっても退去させることを可能にします」として、二度目の難民申請が却下されたら原則本国へ強制送還される可能性が高まります。

難民は政治的に命の危険がある人々、戦争状態、経済危機などで命からがら他国に避難する人々のことを指しますが、日本の難民認定率は極端に低く、G7の他国と比較すると、ドイツ二五%、カナダ六二%、フランス一七%、米国三二%、イギリス六三%、比較的低いイタリアでも一〇%の認定率なのですが、日本は〇・七パーセントという極端な差です（二〇二二年UNHCRおよび法務省発表資料）。何より難民をできる限り受け入れないという日本の国の体制にその原因があると思われま

また日本は移民を認めない国で

もあります。他の国、例えばG7の中には必ずある移民担当省も移民担当大臣も移民局もない。体制が整っていない。制度上移民は存在しないのです。難民に厳しいだけでなく、移民もまた認めない国であることが日本という国独特の閉鎖性を表していると言えます。

三〇年以上の日本滞在にもかかわらず、仮放免者として暮らしながら、同じような境遇にいる人々に援助の手を差し伸べ続けるエリザベスさんの人道的な活動を認め、在留特別許可を与えてほしいと私たちは法務省法務大臣に訴えたいのです。是非みなさんのご協力をお願いします。with Elizabethの連絡先は下記の通りです。ホームページの中に署名用紙が印刷できるコーナーがあります。

Eメール withelizabeth@konosekaini.com
 ホームページ <https://konosekaini.com/>
 チェンジ・オーグ <https://www.change.org/withElizabeth>
 ツイッター <https://twitter.com/konosekaini2>
 フェイスブック <https://www.facebook.com/wekonosekaini/>





短信

一票で変える女たちの会 フェイスブックから

会のFBから抜粋して情報を掲載します。詳しい内容はそれぞれのサイトをご覧ください。太字の見出しまたは写真をクリックするとリンク先に移動します。移動しないとき、印刷版の場合は、見出しなどで検索してください。日付はFB投稿日。

4月6日

安田菜津紀さんのツイッターから

「ヤジは排除されて当然」と思う人ほど聞いてほしい。安倍元首相の演説でなぜ、プラカードで意思表示しようとする人まで排除されたのか、法的根拠は曖昧だった。裁判で道警側はなんと、自分たちを「応援」するヤフコメを証拠として提出。統一地方選



で改めて考えた
い……山崎裕侍
さん「統一地方
選で考える『ヤ
ジと民主主義』
Radio Dialogue
104 (2023/4/5)

4月3日

都が事業委託を打ち切り。女性たちを見殺しにしてヘイトと暴力を肯定する暴挙。この都政を率いるのは女性だ。心底恥ずかしい！

仁藤夢乃さんのFBから

昨日から始まった'23年度は、妨害の影響により東京都からの委託事業はなくなり、民間の助成金をもらえなくなり、すべてみなさんからの寄付で0から活動をして行かなければならぬ。とても大変なことです。この社会を変えるため一人でも多くの方に寄付で参加し、継続的に活動を支えていただきたいと思います。妨害の状況や活動についてはぜひこちらの記事をご覧ください。
<https://www.jpprime.jp/articles/-/273233?display=b>

3月31日

小学校教科書検定ではデジタル対応に関心が向けられているが、一方で教育の統制強化も見落とせない

〈社説〉小学校の教科書 見落とせぬ統制の強化 信濃毎日新聞デジ

タル

'24年度から小学校で使う教科書の検定結果を文部科学省が公表した……教科書に関わりなく全ての教科書がQRコードを載せた。四角いモザイク

状態の符号を端末で読み取ると、関連する映像や音声、資料を閲覧できる……デジタル教材の活用が目向きがちになるあまり、見落としはならないことがある。検定による教育

の統制が小学校の教科書にも確実に及んでいくことだ……検定制度は、

教科書の編集を民間に委ね、創意工

夫を促すのがそもそもの趣旨だ。そ

の根底には、戦前の国定教科書が子

どもたちを軍国主義に駆り立てる道

具になったことへの反省がある……

仁藤夢乃さんのFBから

3月30日

バスカフェが開催できなくなったた

め、その場にいたスタッフ総出で30

名ほどの子たちにまず食べ物を送り

ました。妊娠したけどお金がなく病

院にも行けない、家がないという10

代の子から複数連絡もあり、バスで

話そうと思っていたとのこと。家が

なく妊娠している病院も未受診の10

代の子の1、2週間はとても長く、

バスカフェを開催できなかった影響

の大きさを実感します。

仁藤夢乃さんのFBから

3月28日

3/22のバスカフェが東京都からの中止要請によって開催できなかった後も、私たちは3/29の開催を求めています。しかし、今日18時過ぎ、東京都より、明日のバスカフェは開催させない（「休止する」と）連絡がありました。とても残念です。

今日も新宿歌舞伎町の街には、家に帰れず、お金もなく体を売るしかない、そう思い込まされて過ごしている少女たちがたくさんいます……少女たちを見捨てるような判断をとっても残念に思います。

3月25日

朝日新聞デジタル

死産双子を「遺棄」、

ベトナム人元技能実習

生に逆転無罪判決 最

高裁

熊本県の自宅で死産

した双子の遺体を段

ボール箱に入れるなど



死産双子を「遺棄」、
ベトナム人元技能実習
生に逆転無罪判決 最
高裁
熊本県の自宅で死産
した双子の遺体を段
ボール箱に入れるなど

して遺棄したとして、死体遺棄罪に問われたベトナム国籍の元技能実習生、レー・ティ・トゥイ・リン被告(24)の上告審で、最高裁第二小法廷(草野耕一裁判長)は24日、リンさんを有罪とした一、二審判決を破棄し、無罪とする判決を言い渡した。リンさんの逆転無罪が確定する。

3月21日

日本政府の執拗な圧力で大学側が撤去したことに對する(日英両文による)「平和の像」撤去に関するカッセル大学学学長理事会への抗議文

A Letter of Protest to the University Kassel concerning the Removal of the "Sistue of Peace"

3月20日



ようやく、再審へ……無実への道、開かれる
袴田巖さんの再審開始が確定 東京高検、最

高裁への特別抗告断念 毎日新聞
'66年6月に静岡市(旧静岡清水市)で一家4人が殺害された強盗殺人事件で死刑が確定し、'14年3月に静岡地裁の再審開始決定で釈放された袴田巖元被告(87)の再審請求で、東京高検は20日、地裁に続き再審開始を認めた……

3月17日

署名して拡散を!

【8日間集中・緊急アクション】袴田巖さんに今度こそ再審を!..アムネスティ日本

3月13日、東京高等裁判所は、死刑が確定していた袴田巖さんの再審開始を認める決定をしました……'14年に地方裁判所が再審開始を決定した際には、検察が不服申し立てを行い、その結果、9年の歳月がいたずらに費やされました。検察はこの愚行を繰り返すのではなく、再審実現に協力しなければなりません。
東京高等検察庁に対し、再審開始決定への不服申し立てを行わないよう求めてください!袴田巖さんと彼の家族の長期にわたる苦痛を、一刻も早く終わらせましょう!

3月16日

キャンペーンに賛同をお願いします!
change.org

東京都と新宿区は10代女性を支援するバスカフェを妨害から守って下さい!
#困難を抱える女性への攻撃を許さない

虐待や性搾取の被害に遭った少女を支援する一般社団法人「Colabo(コロボ)」の活動を妨害する悪質な行いが続いています。これを踏まえて以下を要望します。

1. 東京都と新宿区は、3/22のColaboのバスカフェ中止要請を撤回して下さい。



2. 東京都と新宿区は、Colaboのバスカフェを攻撃や妨害から守り、4月以降も引き続き新宿区役所の敷地でバスカフェを継続できるようにして下さい。

3月16日

同性愛で迫害のウガンダ人、大阪地

裁が難民と認定 国外退去取り消し
毎日新聞

同性愛を理由に母国で迫害の恐れがあるとして、アフリカ東部のウガンダから日本に逃れた30代女性が国に難民認定を求めた訴訟の判決で、大阪地裁(森鍵(もりかぎ)一裁判長)は15日、女性を難民と認めず国外への強制退去とした国の処分を取り消した。出入国在留管理庁が性的少数者(LGBTQなど)への迫害を理由に難民認定したのは過去に少なくとも3例あるが、代理人弁護士によると、司法判断としては初めてとみられる……

3月15日

女性支援団体 Colabo への接近・妨害を禁止する仮処分 東京地裁
朝日新聞デジタル

行き場のない若い女性を支援している一般社団法人「Colabo(コロボ)」が東京都の40代男性らに活動を妨害されていると訴えている問題で、東京地裁は14日、この男性について Colabo への接近や妨害活動を禁止する仮処分を決めた……

3月14日
change.org

難民を虐げ、在留資格のない人の命を危うくする、入管法改悪に反対します！

'23年3月7日に、入管法改定案が閣議決定されて



まいりましたが、ここからが正念場です。国会で採決されないよう、一緒に反対の声をあげてください！

3月14日

裁判所は……「捜査機関による隠匿の可能性が極めて高い」とし、証拠が捏造(ねつぞう)された疑いに言及。「袴田さんを犯人と認定することは到底できない」として、検察側の主張を退けた。(時事通信)

袴田事件、再審開始決定 証拠捏造に言及「犯人と言えず」―第2次請求差し戻し審・東京高裁

3月14日

入管法改悪反対集会は、毎週金曜日、

国会前で。福島瑞穂さんのスピーチ。

福島みずほ 参議院議員 社民党党首 on Twitter

入管法改悪法案に反対する参議院議員会館前でのスピーチ。

3月13日

一般社団法人 Colabo

【弁護団声明】令和3年度会計報告に関する東京都の再調査結果を受けた声明

3/3付で東京都監査事務局より公表された文書で、再調査の結果、Colaboの会計処理に不正はないことが明らかに、受託料の返還は一切求められません。以下、重要な点についてご説明します。

3月13日

Colaboへの酷すぎる妨害。何もしない警察はもつと酷い！

仁藤夢乃さんのfacebook

3/8もバスカフェへの妨害がひどく、私が声かけ(アウトリーチ)のために、一緒に活動している人たちと街に出た途端、30人ほどの男たちに囲まれて「税金返せ！」と付き纏われ、触られたりしました。一瞬の

ことでした……

3月10日

岐路に立たされ続ける女性 東大副学長が問う、埋め込まれた性別役割！

朝日新聞デジタル 有料記事



「性別役割的な女性への期待が、いまだに社会の様々な仕組みのなかに埋め込まれています。そのおかしさを言語化し、問い直すことから社会制度を変えていく必要がある」

3月2日

「はだしのゲン」だけでなく、「第五福竜丸」事件の記述も「平和ノート」から削除……広島市教育委員会が検討 johosokuhou.com

広島平和教材から第五福竜丸の記述も削除検討！はだしのゲンに続いて事実上の歴史隠蔽

広島市教育委員会が平和教育の教材からアメリカの水爆実験に巻き込まれた第五福竜丸の事故も記述を無く

す方向で検討していることが分かりました……山陽新聞社が市教委への取材を行ったことで判明した情報

で、漫画「はだしのゲン」の削除に続いて、第五福



竜丸の記述を学校で使っている平和教育の教材から削除する方向で一致……

3月1日

「島々を戦場にするな！」2月26日、沖繩で平和外交求める集会に1600人が集まった

平和外交求め結集 軍備強化反対

1600人訴え 今夏 県民大会目指す―沖繩タイムスプラス

「台湾有事」を理由に県内で米軍と



自衛隊の訓練や配備の強化が進む状況を受けた「島々を戦場にするな！ 沖繩を平和発信の場に！ 2・26 緊急集会」が26

日、那覇市の県民広場で開かれ、主催者発表で1600人が参加した。

3月1日

日本弁護士連合会：政府の「日本学術会議の在り方についての方針」に反対する会長声明

内閣府は、'22年12月6日「日本学術会議の在り方についての方針」を発表し、同日21日「日本学術会議の在り方について（具体化検討案）」としての追加説明文書を示した……

2月28日

change.org

ヒロシマの心『はだしのゲン』を「平和ノート」から削除しないで！

私たちは、広島県の元教員、保護者、様々な市民からなる市民団体「教科書問題を考える市民ネットワーク・ひろしま」です。



2月16日の中国新聞で『「はだしのゲン」の平和教材から削除「被爆の実相に迫りにくい」広島市教委』という記事を見て

驚きました。平和教材からの削除を決めた広島市教育委員会は、自らが作成した「ひろしま平和ノート高校生版」で次のように『はだしのゲン』の重要さを紹介しています……

2月28日

まさかの「平和学習」

京都市立高校生が「平和学習」で射撃体験 沖縄の米海兵隊駐屯地で一京都新聞

京都市立西京高(中京区)のエンタープライジング科の生徒が昨年10月、教育活動の一環として訪れた沖縄県の米海兵隊駐屯地で……

2月21日

自身も仮放免という不自由な身でありながら20年以上、入管被收容者への励ましと支援を続けるエリザベスさんに、人道配慮による「在留特別許可」を！

change.org

オブエザ・エリザベス・アルオリウオさんはナイジェリア出身の難民認定申請者です。女性性器切除(FGM)の強制から逃れたエリザベスさんは……

2月18日

DV法改正へ 殴る蹴るではないが、それは「暴力」だった 毎日新聞

「とても紳士的な人だな」。交際中は、そう思っていた。誕生日には花を買って、プレゼントしてくれるような人だった。誰からも祝福され、結婚した。しかし「鉛を背負ったような暮らし」にもがき、苦しみ……子どもへの怒りのスイッチは、いつ入るか分からない。食事をしていて「ねえ、パパ」と呼びかけた長女の顔を、「横を向くんじやない！」と殴ったこともある……自身への身体的暴力がなかったこともあり、専門家に家族の状況を相談しようと思わなかった……

2月18日



はだしのゲン「漫画だから伝わるのに」広島市の平和教材から削除に疑問の声続々 中国新聞デジタル
広島市教委が小學生向けの平和教育

の教材から漫画「はだしのゲン」を削除する方針を決め、波紋が広がっている。「漫画の一部では被爆の実態に迫りにくい」という市教委の説明に対し、「漫画だから伝わる」など……

2月17日

コラボの活動を妨害する男たちを女性たちが「壁」を作り、撃退した！

他のマスコミはコラボへのヘイトについて、なにも報じていないのだろうか。
少女の居場所 妨害撃退〜東京・歌舞伎町 Coiabo「バスカフェ」女性ら「壁」活動守る 一しんぶん赤旗

性搾取や虐待の被害に遭った少女らに寄り添い活動する一般社団法人Coiabo(コラボ)の事業で、食料の提供や少女らの居場所となっており「バスカフェ」への妨害が激しくなっています。コラボの活動を守ろうと8日夜、雨が降る中25人以上の有志の女性たちが東京・新宿に集合。「女の壁」をつくり妨害者を追い払いました……

2月17日

オランダ どっちが古い？

齋藤裕一さんの「Jokebook」から

てつきり上が現在かと思つた……オランダ、ホントに凄い。文明国の民度、成る程なく都会の木を切り倒す国とのギャップが凄すぎる。

Same place in Utrecht Netherlands, 1980 and 2022.



2月14日

戦争前夜の暗雲を見る思い。―鹿児島県では18歳になると本人の同意なしに名前、住所、性別などが自衛隊に提供されることになった

2月14日

生活保護基準額を'13〜'15年に大幅に引き下げた改定は憲法25条などに違反するとして減額決定の取消を求めた裁判で2月10日に5例目の取消の判決があった

[youtube.com](https://www.youtube.com)

物価偽装解説シリーズ159「23年2月13日『控訴やめて』と厚労省に申し入れた直後の記者会見」

いのちのとりで裁判は、実質的な被告である厚労省が追い詰められた状態になりました。2月10日の宮崎地裁で行政側が敗訴……